

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立田川科学技術高等学校

自己評価			
学校運営計画(4月)			評価(総合)
学校運営方針	開校からの建学の精神を継承し、本校の基本方針を中心に据え、教育活動において基礎・基本を大切に、心豊かで意欲があり、地域社会に貢献できる人材育成を目指すことにより、保護者や地域に信頼され、支援される学校づくりをおこなう。		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
進路実現や学校行事の再開が大きな成果と考えている。在校生には経験のない地域連携事業の継続・発展と、教育課程に準拠し、本校生徒の実態に即した評価方法の改善が課題となる。	授業規律の確立とわかる授業等による基礎・基本の定着。 豊かな人権感覚を養う、安全・安心で充実した学校生活。 道徳教育の推進による、生徒一人ひとりの自信と誇りの向上。 生徒の情報共有を基にした、組織的・機動的な教育活動の推進。 保護者・地域と連携し、地域に開かれた学校づくりの推進。 開校20周年を見据え、自覚と誇りの高揚と実学を重視した教育活動の推進。	授業規律の確立に努め、ICT機器等を活用し、生徒の興味関心を引き出すような授業づくりを行い、基礎学力の向上や実践的創造力の高揚、知識・技能の習得を図る。また、資格・検定試験の奨励等により、自ら学ぶ意欲や態度を育てる。 人権が尊重される学校づくりに努め、命と健康、安全を大切に教育活動を行う。また、生徒会活動や学校行事、部活動とおとして、本校生としての誇りと自覚を持たせる。さらに、合理的配慮を確保させ、充実したインクルーシブ教育を推進する。 社会人として求められる人材となれるよう、時間の厳守や身だしなみ(服装頭髪)、マナー(挨拶、言葉遣い、態度等)指導を強化し、基本的生活習慣を身に付けさせる。また、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、就学支援の充実や特別支援教育を推進する。 分掌・学年・学科間等教員間の連携、さらには家庭との連携を強化し、教育相談等での生徒理解により、中途退学等の防止に努める。 生徒一人ひとりの興味・関心を高め、各学科・各専攻の特色を生かした作品制作、物品販売、ものづくり教室等の機会を効果的に活用し、地域に開かれた学校づくりを進める。 授業や学校行事、部活動などのこれらでの教育活動に加え、地域の各種行事にも積極的に参加することで、自己有用感・自己肯定感を体感し、本校生徒としての自覚を持ち、希望進路の実現に努めるよう体系的な指導体制を構築する。	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)
学務部	総合型産業高校の特色を活かし、一人一台タブレットの導入に伴い、専門的な授業の中にもICTを活用した学びを深める取組を取り入れる。専門的な知識の向上とともに基礎学力の定着に向けた工夫改善を行う。	ICTを活用し生徒が興味関心をもち、主体的に授業に取り組める工夫改善を行う。 また、生徒の実態に即した基礎学力向上の取組を行う。 全職員でICTを活用した実践的な授業方法を取り組みながら、教科を超えた取組とされるように連携を図る。また、ICT教育を推進できる小委員会を組織する。	○ ◎ ○
	地域の産業や暮らしに学び、広い視野と豊かな国際感覚を身に付けさせるべく、企業の活動を想定した実践力の定着に向け、より専門的な国際感覚の持てる指導を実施する。	地域を学び、地域に貢献できる人材の育成を目指し、地域の教育資源や自然環境を活用した学習や新しい技術を積極的に導入した学習を行う。創造性豊かで知的財産を活用できる教育活動を行う。 卒業後の進路実現を考え、広い視野に立った専門性や国際感覚を身に付けることを目指し、専門性の理解と専門的な国際理解を深める教育を目指す。	○ ○ ○
生徒部	学校生活が心身ともに健康的であり、社会に貢献できる人材の育成を目指す。基本的生活習慣の確立、服装頭髪指導やマナー指導を徹底し、社会人・企業人に必要な自己教育力の向上を図る。	校内進路や個別指導による問題行動の未然防止に努め、安心・安全な学校づくりに向け指導する。 学校生活を基盤とした規則の遵守、生活マナーの徹底を目指し機会を捉えた指導、行動の改善を図る。 朝巡回での頭髪状況確認や定期検査によって常に落ち着いた環境で学校生活を送れるよう指導する。 ホームルームや授業開始時の服装指導の徹底を図り、一日を正しい服装で生活させる。 昼下校時の交通・マナー指導や自転車・バイク通学者の定期指導や集会等を実施する。	◎ ○ ○
	校内の美化・清掃活動に関する意識の高揚とゴミの確実な分別処理指導をおこなう。また新型コロナウイルス感染症の感染リスクの軽減や感染予防の基本的な感染対策の徹底と場所、時期に応じた予防意識の醸成を図る。	年度初めの掃除道具補充、掃除時間のBGM放送を行い、必要に応じて掃除マニュアルを配布(改訂)する。ゴミの減量・分別などの基本事項を適宜指導し、外部者が来校する学校行事に向けて細部の清掃を全職員・生徒に投げかける。 基本的感染対策の各種取組み(手洗い、喚起など)を継続しつつ、地域・県内の感染状況や感染リスクの高い場所等、状況に応じた対応方法の工夫(マスクの着用、着用不要の場面の設定など)も図り指導する。また各種学校行事や活動再開に備え、睡眠や食事などの基本的生活習慣を整えることを呼びかける。	○ ○ ○
進路部	地域と企業と連携した活動などの様々なキャリア教育を通して、生徒各々に自己の将来を見据えさせ、健全な労働観や職業観を育成する。そして進路実現を確かなものとする。	企業情報や進路情報などの進路に関する様々な情報提供を充実させ、生徒自身が情報を収集し、整理する力をつけることで、自ら将来について考え行動できる能力を育成する。 様々なキャリア教育の取り組みを通して自己理解を深めさせ、将来の自分を見据えて、「やりたいこと」と「やらないこと」、「やらなければならないこと」を判断し自ら考える力を育成する。	◎ ○ ○
	開校20周年を来年度に迎え、すべての生徒が地域から信頼される学校づくりを進めるために、学校行事・地域行事に積極的に参加する。	地域に即し、本校の教育活動への理解を深めるため、3学科それぞれの専門性を生かした地域交流活動を行い積極的に広報活動を行う。 創立20周年を来年度に迎え、PTA、同窓会、教職員としっかり連携を取り、今年度の行事を運し、在校生の意識を高め人材育成に取り組む。	◎ ○ ○
人権・同和教育部	目標の人権について正しく理解し、相互に人権を尊重し合う社会づくりの一員として人権感覚豊かな生徒の育成を目指す。	人権教育全体計画を柱に、人権・部落問題学習や職員研修に計画的に取り組む。また、人権委員会の定例的な開催等とおして、生徒の自主的な活動を進める。 生徒の人権が尊重された環境づくりに努め、安心安全な学校生活をおとして、人権意識・人権感覚の育成を図る。	◎ ○ ○
	生徒の抱える様々な課題の解決に向けた取組を進め、進路保障へとつなげる。	生徒が抱える様々な課題について早期に取組を行えるよう、担任や学年間と連携を密にする。 生徒がかかえる課題解決に向けて、保護者・小中学校・地域・SC・SSWと連携を密にし、職員間で共有を行いながら、組織的に対応していく。	○ ○ ○

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
学校関係者評価委員会からの意見	
A	タブレットを活用して基礎学力の定着を目指した授業をさらに進めて欲しい。 また、地域連携を進める上で、生徒が実習した活動等を授業の一環としておこなえるよう工夫して欲しい。
A	部活動の加入率は低いが、頑張って活動している生徒の様子がよくわかった。 地域唯一の専門高校として地域からの期待度も高いので、校則やルールを守り、社会性を身に付けた生徒の育成をお願いしたい。 本校生徒が様々なトラブルに巻き込まれることのないよう、SNSやネットの利用についても指導をおこなっていただきたい。
A	進路内定率100%を達成できており、就職希望の生徒は地元志向が強く、県内就職者が多いことが理解できた。 地元田川で着者が生活し、納税者として自立して生活できるよう、さらなる学校での教育・指導をお願いしたい。
B	特性のある生徒の入学が増加傾向にあるため、そのような生徒に対する合理的配慮を職員間で共通理解しておいていただきたい。 また、毎月おこなう人権学習では、生徒の身近にある差別についての具体例を示し、差別に気づき差別を見逃さない学習となるよう指導していただきたい。
評価項目以外のものに関する意見	
特になし	

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・タブレットを活用した授業が全ての授業で実施できるよう、職員研修等の充実を図る。
- ・生徒指導規定の改定に合わせて、全職員の共通理解を図るため、指導マニュアルの作成や研修会を実施する。
- ・創立20周年記念事業の実施にあたり、地域唯一の専門高校としての理解が深められるような広報活動とする。
- ・生徒自身が自らの差別性を認識できるよう、身近な問題を特設授業に取り入れ、人権意識の醸成を図る。